

I 組織の使命

観光部のミッション（使命）は、

「函館市観光基本計画」に掲げる基本理念「人・まち・文化の宝石箱新・国際観光都市 函館へ」を実現することです。

観光を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、市および関係団体・関係機関が連携し、市民との協働を図りながら、柔軟かつ効果的に施策を展開します。

II 組織の基本方針

○ 本市の基幹産業の一つである観光業の再生・活性化のため、次の6項目を基本方針として、積極的な取り組みを進めます。

- ・ 地域基盤構築
- ・ ビジョンの発信
- ・ 課題抽出と対策立案
- ・ 観光力の向上
- ・ 魅力発信と誘客促進
- ・ 地域間連携

III 年度評価 総評

観光業の再生・活性化のため、観光施策や各種誘客促進事業を実施しました。

国内観光客については、東北地方や首都圏、関西圏、名古屋圏での観光プロモーションのほか、函館発偉人アイドルグループ「HAKOMEN」を活用したWebやSNS等による情報発信を行うなど、コロナ禍で落ち込んだ観光需要の回復に取り組みました。外国人観光客については、5月に台湾からの定期便が3年ぶりに再開されたほか、12月には香港便が季節運航する中、台湾トッププロモーションをはじめ、中国や韓国、タイなどで観光プロモーションを行いました。

また、「函館港まつり」がコロナ禍後初めての通常開催で4年ぶりにいか踊りが復活したほか、「はこだてグルメサーカス」などの主要イベントや大型のコンベンションが開催され、まちに活気と賑わいが戻ってきました。

さらに、令和6年度(2024年度)から5年間の新たな観光基本計画の策定を行ったほか、函館を舞台とする劇場版「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」の公開を記念したコラボイベントの開催準備や、縄文文化に関する通訳ガイドの育成、他都市との広域連携による周遊観光の促進などに取り組みました。

区 分	担当課	評価	評価の説明
1 地域基盤構築			
・市と地域の観光振興の中核を担う函館国際観光コンベンション協会との役割分担の見直しと連携強化により、効果的かつ機動的な観光施策推進体制の確立を目指します。	観光企画課	B	・今後の函館観光の推進体制の強化のため、観光地域づくり法人(DMO)の先進事例の調査を行った。
・市内外の関係機関等との積極的な情報交換・交流を図り、情報ネットワークの拡充・強化に努めます。	観光企画課	B	・市内の観光関連団体に対して支援制度等の情報を発信したほか、観光事業者からの情報収集などを行った。
2 ビジョンの発信			
・観光施策の基本方針等について観光関連団体等と情報共有するとともに、令和6年(2024年)から5年間の第5次函館市観光基本計画を策定し、広く発信します。	観光企画課	B	・令和6年度(2024年度)から5年間の新たな観光基本計画の策定を行った。
3 課題抽出と対策立案			
・第5次函館市観光基本計画を策定するにあたり、有識者や観光関連団体、市民公募の委員からなる策定委員会を組織し、函館観光の課題や今後の方向性についての検討を行うほか、市民や市議会からの意見聴取を行います。	観光企画課	A	・有識者や市内の観光関連団体の代表者、市民公募の委員からなる、観光基本計画策定検討委員会を組織し、現在の函館観光の課題や、5年後のあるべき姿、基本理念など、新たな観光基本計画の基礎となる部分について意見聴取を行った。
4 観光力の向上			
・賑わいや活気を取り戻すため、市民や観光客が楽しめるイベントの内容などを計画・実施するとともに、その情報発信を行います。また、人材・財源の確保が難しくなる中、既存イベントの見直しを含め、参加者および関係者にとって持続可能なイベントのあり方を検討していきます。	観光振興課	B	・新型コロナウイルス感染症5類移行後、全てのイベントを通常開催し、その情報発信に努めた。 ・函館駅前イルミネーションが終了したことから、はこだて冬フェスティバルの「はこだてひかりのガーデン」を函館駅前に移行して実施するなど既存イベントの見直しを図った。
・様々なイベント主催者などとの連携を深めながら、賑わいと活気の溢れる「フェスティバルタウン」としての認知度の向上やイベント関係者のコミュニティの活性化などを進めます。	観光振興課	B	・イベント情報サイト「函館イベントガイド」の掲載内容を、函館市公式観光サイト「はこぶら」に移行したほか、イベント情報を同サイトが運営する各SNSに適宜に掲載することで、情報発信に努めた。 ・市内におけるイベントの活性化を図るため、イベント主催者への支援として、テントなど物品の貸出により連携を図った。
・国内外の観光客に訴求する地域の新たな魅力の掘り起こしや、観光需要回復を見据えた受け入れ環境整備を進めます。	全課	B	・公式観光情報サイト「はこぶら」において、函館を舞台とした漫画作品等に関する情報発信を行ったほか、函館の食やイベント等に関する情報発信を行うなど、新たな魅力の掘り起こしを図った。 ・本市のインバウンドのボリュームゾーンである台湾や中国に対応するガイドが不足しており、質の高い中国語ガイドの育成を図るため、渡島総合振興局と共催で勉強会および実地研修を開催し、4名を中国語ガイドとして縄文文化通訳人材ガイドバンクに登録した。 ・HAKODATE FREE Wi-Fiの再整備により、アクセスポイントの見直しを行うとともに、Open Roamingを導入し、高度なセキュリティや通信速度を向上させ、満足度の向上に努めた。

区 分	担当課	評価	評価の説明
5 魅力発信と誘客促進			
・関係部局と連携を図りながら，世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」の国内外への情報発信の強化に努めるとともに，観光資源としての活用を推進します。	観光誘致課	B	・教育旅行関係の商談会等において，学校関係者および旅行代理店担当者に対し，本市の縄文文化のPRならびに体験学習メニューの紹介などを積極的に展開した。
・函館発偉人アイドルグループ「HAKOMEN」を活用したWebやSNSなどによる観光プロモーションや教育旅行の受入環境のPRなど，効果的な誘客促進策を立案・展開します。	観光誘致課	B	・「HAKOMEN」を活用した観光プロモーションでは，WebやSNS等で「景観」，「食」，「歴史」といった函館観光の魅力について発信したほか，HAKOMENファンミーティングの開催やオリジナルカードの配付により直接的な誘客を図るなど，一体的なPRを実施した。 ・教育旅行の誘致に関しては，東北・北関東エリアの学校訪問や関東・関西エリアの商談会にて本市の教育旅行受入環境のプロモーションを実施した。
・観光誘客促進にかかる施策を展開するほか，インバウンドの本格的な回復に向け，旅行消費額拡大や持続可能な観光地域づくりに取り組みます。	観光誘致課 国際観光課	B	・海外プロモーションについては水際対策が緩和され，台湾からの定期便，香港からの季節チャーター便が就航し観光目的の海外往来が再開され，さらなる来函意欲向上を図るため，SNSを活用したデジタルプロモーションを実施した。また，来年度以降，欧米からの観光客誘客に取り組むため，アメリカ市場における分析・調査事業を実施した。
・函館国際観光コンベンション協会や北海道MICE誘致推進協議会と連携しながら，積極的な誘致活動を展開するとともに，MICE開催に向けた情報収集ならびに効果的な支援に努めます。	観光誘致課	A	・道MICE誘致推進協議会主催の商談会や国際MICEエキスポ（IME）への参加により積極的なPR活動を実施した結果，数年後に本市での開催が有望な案件を獲得した。併せて，学会事務局などを個別訪問するなどして本市の情報提供を行うとともに，MICE開催に係る受入側へのニーズなどについて情報収集を行った。 ・本市において過去最大規模の医学系学会「日本消化器外科学会総会」を準備段階からサポートし，成功裏に終了させたことが契機となり，複数の医学系学会の開催招致に繋がった。
・函館のロケ地としての魅力をPRし，映画，ドラマ，CMなどのロケ地誘致や撮影支援を行うとともに，ロケ地めぐりなどを通じた観光誘客に努めます。	観光振興課	B	・函館を舞台とする劇場版「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」の公開を記念したコラボイベントの開催に向け，官民協働の実行委員会を組織し，準備を行った。 ・映画「おいしい給食 Road to イカメン」をはじめ，多くのテレビ番組，CMなどの撮影支援に加え，ロケ地誘致のため商談会において，函館の魅力やロケ実績などの積極的なアピールに努めた。 ・ロケ地めぐりを目的とする観光誘客を図るため，ロケ地マップを作成し，全国の上映劇場や市内の観光施設などに設置した。

区 分	担当課	評価	評価の説明
6 地域間連携			
・東日本の新幹線沿線地域や東北地域等と連携し，国内外からの誘客を図るための広域観光ルートの形成に努めます。	観光誘致課	B	・新函館北斗駅広域観光推進協議会では，「はこだて旅するパスポート」を発行し，近郊エリアの周遊促進を図ったほか，函館・津軽・秋田広域観光推進協議会においては，周遊ガイドを作成し，連携エリアのプロモーションに努めた。 ・新幹線沿線地域等の教育旅行を主に取扱う旅行代理店へ関連資料を配付するなど，情報発信を行った。
・青森市，弘前市等と連携し，青函圏の魅力を広く発信するとともに誘客の強化に努めます。	観光誘致課	B	・青函4市連携では，八戸三社大祭，弘前城菊と紅葉まつりでの共同プロモーションを実施したほか，青森市との連携では，神戸市での共同プロモーションを実施し，関西エリアにおける青函圏の魅力を発信を行った。 ・また，弘前市との連携では，春季には桜ミクを活用した「ひろはこ春の観光キャンペーン」を，冬季には雪ミクを活用した「ひろはこ冬の観光キャンペーン」を実施し，青函圏への誘客や周遊の促進を図った。
・札幌市および登別市と連携し，3市の魅力を発信し，誘客・周遊の促進を図るなど，「北海道ドラマティックロード」の構築に向けた取り組みを進めます。	観光誘致課	B	・OTAサイトのWEBクーポンを活用したプロモーション，サウナ旅をテーマとした周遊促進プロモーションおよび3市周遊レシートキャンペーン等の実施により，広域観光ルート「北海道ドラマティックロード」の認知度の向上および3市への誘客や周遊の促進を図った。